



浜松の古墳から出土する多彩な埴輪

はにわ

埴輪は、その造形から広く人気のある考古資料です。また、最近では国立博物館で埴輪の特別展が開催されていることもあり、注目度はさらに増えています。近年、浜松市域でも良好な埴輪資料が増えていますので、その様相について紹介します。

埴輪とは？ 埴輪は古墳の上に立てられた焼き物で、そのルーツは弥生時代に吉備（岡山県）で盛行した墳墓供献用の壺とそれをのせる器台に求められます。それが古墳時代初頭に円筒埴輪へ変遷し、古墳上に数多く並べられるようになります。その後、器物や人、動物をかたどった形象埴輪が現れます。

円筒埴輪 造形はシンプルですが、全国の埴輪を有する古墳で普遍的に存在するため、その形態や製作技法の変遷が明らかとなっており、出土した古墳の年代を求める際の基準として用いられます。

浜松市域では最も古い中期前葉の円筒埴輪が、狐塚古墳（細江町気賀）で出土しています。その特徴には近畿の埴輪と共通性が認められることから、ヤマト王権とのつながりを有する埴輪工人の関与がうかがえます。

その後、朝鮮半島から渡来した須恵器生産技術（ロクロの使用、窯での焼成等）が導入

された埴輪が浜松市域に広まり、中期中葉の光明山古墳（山東）や千人塚古墳（有玉西町）、中期末〜後期初頭の郷ヶ平3号墳（都田町）や辺田平1号墳（染地台六丁目）等で確認できます。これらは淡輪系埴輪と呼ばれる、底部に段を有する等の特徴があります。

さらに後期前葉には、色調や硬度、調整技法等が須恵器とほぼ同様の尾張系埴輪が郷ヶ平4・6号墳等で確認されています。

形象埴輪 古墳時代前期に家や武器、蓋等の器財形、鳥形の埴輪が登場し、被葬者を守るように並べられます。その後、中期には多様な人物、動物の埴輪が現れますが、これらは墳丘の前方部や造り出し、周提等において、儀式のようすを表現するように配置されています。

浜松市域では、狐塚古墳で蓋・家・甲冑等の器財形埴輪が確認されており、人物・動物形の埴輪は、辺田平1号墳と郷ヶ平古墳群に良好な資料が存在します。辺田平1号墳出土の人物埴輪は、当時の女性の髪型や服飾をうかがうことができます。また、見返りの鹿形埴輪と弓矢を持つ人物埴輪の組合せは、狩りの場面を表現していると考えられます。

郷ヶ平3号墳の馬形埴輪と人物埴輪の組合

せは、儀式の際の隊列の一部と考えられます。人物埴輪は左手を挙げており、馬を曳くために綱を持つ所作をしています。

このように円筒埴輪からは古墳の築造時期や系譜等が求められ、形象埴輪からは絵画や文字が乏しい古墳時代の風習や文化等の情報を立体的に得られる等、埴輪は造形的な魅力だけではなく、古墳時代研究において非常に重要な役割を果たしています。



郷ヶ平3号墳出土馬形埴輪と馬を曳く人物埴輪
馬からは馬具の装着状況が、人物からは男性特有の髪型（美豆良）が確認できます。



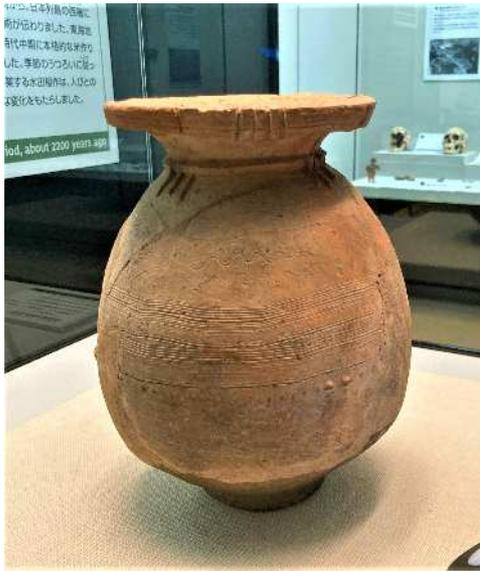
辺田平1号墳出土人物埴輪
左手は接合しませんが、弓矢を持ち、鞍（矢を入れる容器）を背負っていることから狩人と考えられます。



辺田平1号墳出土人物埴輪
島田髷を結び、袷袢状衣を着ています。手の先を欠いていますが、器物を捧げ持った女性と考えられます。

【博物館所蔵資料の紹介】

弥生土器(加飾壺)



都田川下流の中川平野の遺跡では、明治から昭和にかけての大規模な河川改修工事で多くの遺物が出土したと伝わります。本資料は、そうした状況の中で考古資料の収集を精力的に行っていた月岡準三によって採集され、後年に当館へ寄贈されたものです。

月岡の残した記録では、本資料は細江町中川の船渡遺跡出土とされています。船渡遺跡は銅鐸2口の発見地として知られていますが、隣接して岡地遺跡や川久保船渡遺跡等複数の弥生時代の遺跡があるため、どの遺跡に帰属するかは厳密に判断できません。

本資料は弥生時代終末期の壺形土器です。口縁部から胴部までの広範囲に、櫛状工具による横線文や波状文等が施され、棒状や粒状の粘土を貼り付けた装飾が付加されています。また、口縁部を折り返して面をつくり、頸部の付け根に段を設ける等、装飾性の高さが特徴的です。また、こうした装飾に加えて、丁寧な器面調整が行われ、器形も非常に整えられていることから、祭祀等に使用されていた特別な土器だと考えられます。

現在、常設展示室の弥生時代のコーナーで展示されていますので、その端正な器形と装飾の美しさをぜひご覧ください。

催し物のご案内

★テーマ展「近代の学校の姿」

11月2日(土)～2025年1月13日(月)

学校と地域との関わりや教育のあり方、校舎等の建物の様子等を紹介しながら現代の学校へとつながる近代の学校の姿について紹介します。

【展示に関連する事業】

・ギャラリートーク

日時 1月8日(水) 10:00～10:30(申込不要)

★小展示「道具たちの100年」

11月12日(火)～2025年3月9日(日)

小学校3年生社会科「道具とくらしのうつりかわり」に合わせてくらしの道具の変遷を紹介します。

★小展示「蜷塚遺跡発掘調査速報展」

11月28日(木)～12月28日(土)

今年の8月に行われた蜷塚遺跡8次発掘調査の成果を、主な出土資料(縄文土器、貝の腕輪、動物の骨や貝殻等)とともに紹介します。

★小展示「干支展 巳」

2025年1月25日(土)～3月9日(日)

令和7年の干支である「巳」(へび)にちなんだ資料を豊橋市自然史博物館との相互貸借で展示します。

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

1月11日(土)・2月8日(土)

14:00から30分程度

会場 旧高山家住宅(蜷塚公園内)

参加無料

事前申込不要



★体験学習「冬休み体験館」

12月26日(木)～12月28日(土)

2025年1月4日(土)～1月5日(日)

展示の見学や様々な体験活動を通して、楽しみながら歴史について学ぶことができます。

※各事業の詳細は、HPやSNSでご確認ください。
※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から
ホームページ
X(旧ツイッター)
Instagram



浜松市博物館 開館時間：9時～17時

〒432-8018 浜松市中央区蜷塚四丁目22番1号

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

12月～2月の休館日：12/2,9,16,23,29,30,31 1/1,2,3,6,14,20,22,27 2/3,10,12,17,25,26

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/